

# HORIGUCHI COFFEE Letter

No. **8**  
2022.03.31

すっかり春めいて心も華やぐ季節となりました。春といえば新生活。心機一転と、何か新しいことに挑戦してみたくなる季節ですね。さて、今年から新たに始まったコラム「コーヒーとSDGs」。第2回は「SDGs」への理解を深めることの大切さをお伝えします。



## CSO伊藤の 第2回 コーヒーとSDGs

実質的な初回となる今回はSDGs 自体について簡単に確認しておきたいと思えます。

SDGsはSustainable Development Goals の略です。日本ではSustainableを「持続可能な」、Developmentを「開発」、Goalsを「目標」とそれぞれ訳し、その順番のまま組み合わせて「持続可能な開発目標」としています。

この中の「目標」という言葉は私たちが普通に使うのと同じ意味で使われていますが、そうとも言えないのが「持続可能な」と「開発」です。順序は前後しますが、まずは「開発」の方から見てみましょう。



広報担当・中川の



## 広報 JOURNAL

### ビクターロック祭り2022に堀口珈琲が出店!

3月19日(土)に幕張メッセで実施された音楽イベント「ビクターロック祭り」(<http://www.rockmatsuri.com>)。堀口珈琲は今年初めてブースを出店し、たくさんのロックファンの方々にコーヒーを提供してきました。

ドリンクメニューの中でも特に好評だったのは、見た目はまさに「黒ビール」な、窒素ガスを注入した新感覚のアイスコーヒー“スタウトコーヒー”。写真を撮るお客様をたくさん見かけました。

堀口珈琲を初めて体験する方がたくさんいらっしゃった今回のイベント。ロック好きにはコーヒー好きが多いのだ、と改めて実感した1日でした。またいつか、音楽イベントへ出店したいと今から意気込んでいます。

#### 「開発」とは

上述のとおり、「開発」は英語の development (動詞develop の名詞形)の訳語です。develop はフランス語に起源を持ち、もともとは「自分を包んでいたものから脱していく」といったことを意味します。日本語に一对一で対応する言葉がなく、場合に応じて「開発」以外にもさまざまな訳されます。例えば、「発展」や「発達」「発現」「発生」「発育」「成長」「展開」「進展」などなど。

develop は政治学や経済学の世界で長く使われている専門用語でもあり、「人が経済的・社会的にさらに豊かになる」といったことを指します。この意味で使う場合、「開発」と訳するのが慣例です。Sustainable Development Goals が「持続可能な開発目標」と訳されるのもこの慣例に基づいています。

「開発」と聞いて私たちがイメージするもの(例えば「都市開発」や「資源開発」とはニュアンスがちょっと違いますね。「持続可能な開発目標」という言葉のわかりづらさの一因はこのあたりにあるのかもしれない。

#### 「持続可能な開発」とは

「持続可能な」すなわち「サステナブル」という概念は水産資源管理に関する研究に起源を有するそうです。漁業資源を枯渇させずに利用しながら長期にわたり維持できる年間漁獲量として「持続漁獲量」という考え方が早くも 1931 年に提唱されています。

「持続可能な開発」という概念が初めて公表されたのは、その半世紀後の 1980 年。国際自然保護連合 (IUCN) が策定した「世界保全戦略」においてでした。しかし、SDGs で用いられる意味での「サステナブル」の考え方が確立する画期になったのは、「環境と開発に関する世界委員会 (通称：ブルントラント委員会)」が 1987 年に公表した報告書「Our Common Future」だとされます。同報告書では「持続可能な開発」を中心的な概念として取り上げ、「将来世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」と定義しました。

次ページへつづきます



イベント出店の詳しいレポートは「HORIGUCHI COFFEE チャンネル」でも公開中!  
▷「コーヒーとビクターロック祭り〈準備編〉〈本番編〉」は4月上旬公開予定です  
<https://www.kohikobo.co.jp/channel/16475/>

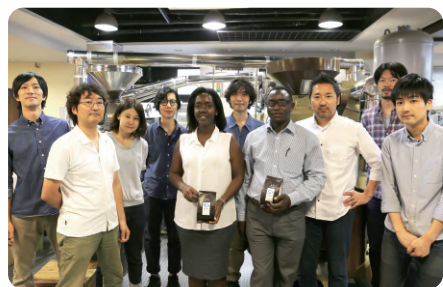


その後もさまざまな議論を経て、現在は次のような認識が共有されています。すなわち、持続可能な開発には環境・社会・経済の三つの側面があること、三側面のうち環境は他の二側面の基盤になっていること、三側面は相互に関連し依存しあっているため統合的に扱い調和させる必要があること、です。

## SDGsとは

こうした認識の下、SDGsは2015年9月に国連で採択されました。では、SDGsとは何でしょうか。

これにはさまざまな答えがありますが、私は最近、こう答えることにしています。「世代を超えて、すべての人が、自分らしく、よりよく生きられるように、世界を変革するための目標」。



来日した生産者と一緒に(2017年狛江店にて)

SDGsは「2030アジェンダ」(正式には「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」という文書の一部です(なので、2015年に国連で採択されたのはSDGsというより2030アジェンダです)。確かに、SDGs自体を知るためには少なくとも17の目標の文言(アイコンに添えられた短いキャッチコピーでなく、目標自体)を読むことは必要です。しかし、仮にさらに進んで169のターゲットまでしっかり読み込んだとしても、肝心のSDGsが目指す世界の姿は浮かび上がってこず、その意味ではSDGsを真に理解したことにはならないでしょう。その理念を理解するという意味では、2030アジェンダの中でSDGsの前にある「前文」や「宣言」の方がむしろ重要といっても過言ではありません。全部を読むのも大変なら、前文から宣言第9段落まで目を通すことをお勧めします(外務省による仮訳が簡単に入手できます)。前文や宣言を読むとわかるのは、SDGsは究極的には「人」のための目標であるということです。実際、宣言の中には、2030アジェンダが「人々の、人々による、人々のためのアジェンダ」であることが明示されています(第52段落)。17の目標のうち、最初の6つは「人(People)」に関するものとなっています。特に重視さ



産地での収穫の様子

れているのは、貧困の撲滅です。

すなわち、まずは「人」ありきで、そのためにどのような環境・社会・経済であるべきか、が示されているのです。決して、自然環境を保護するために、人の暮らしを犠牲にしろ、とは書かれてはいません。まずはこのことを押さえておきたいと思います。

なお、前述した「SDGsって何?」に対する私の答えは、私のオリジナルではありません。実は、ある書籍からの受け売りです。その書籍とは田瀬和夫・SDGパートナーズ著の『SDGs思考』。ビジネスパーソン向けの本ではありますが、類書に比べて記述は平易で読みやすく、「はじめに」と第1章を読むだけでもSDGsへの理解が深まりますので、お勧めです。以上を踏まえて、今回はSDGsやサステナビリティとコーヒーの関わりについて考えたいと思います。



## Profile

### 伊藤 亮太 (いとう りょうた)

株式会社堀口珈琲 取締役CFO(最高財務責任者) / CSO(チーフ・サステナビリティ・オフィサー)

大学卒業後、宇宙開発事業団(現JAXA)に10年間勤務する。2002年にコーヒー業界へ転身し、2003年に堀口珈琲に入社。以来一貫して海外のコーヒー関係者との連絡調整を担当する。2013年4月から2020年6月まで代表取締役社長を務め、2020年7月より現職。

最新情報は  
**SNS**で  
随時更新中!



業務用コーヒーについて  
発信しています!

@instagram  
堀口珈琲ホールセールアカウント  
@horiguchicoffee\_warehouse

その他 SNS はこちら

@horiguchicoffee  
@horiguchicoffee  
@kohikobo

取材や掲載に関する  
お問い合わせ先

株式会社堀口珈琲  
広報担当: 中川紗彩  
TEL: 080-7333-4691  
Email: s.nakagawa@kohikobo.co.jp

広報サポート  
出口はる(フリーランス PR)

TEL: 090-2319-5605  
Email: harudeguchi@gmail.com

堀口珈琲 ブランドサイト  
<https://www.kohikobo.co.jp/>



店舗情報  
<https://www.kohikobo.co.jp/shop/>



堀口珈琲 オンラインストア  
<https://kohikobo.com/>



堀口珈琲の「今」を伝えるニュースレターを配信中!  
ニュースレター バックナンバー  
<https://www.kohikobo.co.jp/news/newsletter/>

